

令和7年度大山崎町男女共同参画計画懇話会（報告）

- I 日 時 : 令和8年2月24日(木) 午後3時～同5時
II 場 所 : 長寿苑 大広間
III 出席者 : 13名
出席委員（9名）
事務局（3名）
傍聴者（1名）
IV 会議名 : 令和7年度大山崎町男女共同参画計画懇話会
V 内 容 : 以下のとおり

【要点】

まず令和7年度大山崎町男女共同参画計画懇話会会長・副会長の選出について、委員の互選により、それぞれ選出した。

続いて、大山崎町男女共同参画計画の遂行について、事務局から説明をおこなった後、委員の意見交流をおこなった。

- 1 委嘱書交付 事務局
事前に郵送にて交付をおこなった。

- 2 開 会 事務局
課長あいさつ

本日はご出席いただき、ありがとうございます。少子高齢化や働き方の多様化など、社会環境の変化の中で男女共同参画の重要性が高まっています。日本のジェンダー・ギャップ指数は依然として低い水準にある中で、初めて女性の総理大臣が誕生したことは、象徴的な出来事として受け止めています。こうした変化を、実際の暮らしに着実につなげていくために、住民に最も近い自治体に、誰もが参画しやすい環境づくりが求められています。本懇話会はこうした課題について、多様な立場から率直なご意見をいただき、今後の施策に生かしていく大切な場です。ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください。

- 3 委員・事務局職員紹介

- 4 案件

※(1)の進行は事務局が担当

(1) 会長・副会長の選出について

委員の互選により、それぞれ選出した。

会長就任あいさつ

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。普段は親子サロンなどを展開し、子育て支援を中心に活動しています。子育て支援に携わる中でもやはり男女共同参画が大切だと感じます。一方で国際的には、日本のジェンダー・ギャップ指数は2年連続118位です。まだまだジェンダー平等への取り組みが必要です。

今日は気軽にお話していただければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(2) 大山崎町男女共同参画計画の遂行について

※ 以降の進行は会長が担当

各委員の意見（概要）は次の通り。

委員

フィリピンのファミリー市との姉妹都市連携に向けて取り組まれていることは、いいことだと思っています。実際に現地視察にも行きましたが、人口規模が同程度であり竹林産業が盛んなこと、また公用語が英語というところもいいなと思いました。

事務局

町議会から関連予算が認められないなど提携に向けては難航していますが、町長は引き続き進めたい気持ちを持っているということで聞いています。

会長

男女共同参画の視点から考えると、互いの違いを認め合うという考え方は大切だと感じます。

委員

資料2の基本方針8「女性に対するあらゆる暴力の根絶」について、女性へのDV等への対策については、大切なことだと思います。一方で、男性が被害に合うこともありますし、「女性に対する」という表現は逆に男女の区別を助長しているのではないかと思います。

DVに関するものではありませんが、これまでの社会はやはり、固定的な性別役割分担意識のもとにあったと思います。でもこれからは、違います。家事も子育ても男女関係なく協力、努力して行っていくべきです。どうしても女性の負担が大きくなっ

てしまいがちですが、私もなるべく夫とともに子育てするようにしてきました。子育てを終えた現在は、料理などの家事も夫婦どちらでも出来るように取り組んでいます。家事や子育ての経験は、介護などにもずっとつながっていくものだと思っています。

会長

本計画については、男女共同参画社会基本法に基づき策定されていることから、「男性・女性」という表現が多くなっていると思いますが、今後は男女にとらわれない多様な性を抱含するジェンダー平等になってほしいと思います。

ご自身のお話もしていただき、ありがとうございます。苦勞されながら、取り組まれてきたのですね。現役で子育てをされている方のお話についても聞いてみたいと思います。

委員

子育てについて、夫婦で協力して行っています。女性も社会で活躍する時代ですし、家庭のことも共にやっていく必要があると感じています。私自身、母親から「これからは男性も料理などの家事を当たり前にしていくものだ」という教育を受けていたことも影響しているかもしれません。そういった意味では、家庭教育の役割も重要で、自分の子どもにも継承していきたいと思っています。

行政は、男女共同参社会への意識の向上について、啓発活動を行ってもなかなか効果が出ないこともあろうかと思いますが、失敗を恐れずどんどんいろいろな取り組みを進めてもらいたいです。

会長

ありがとうございます。生涯学習課で男性向けの料理の取り組みをしたことがあったかと思いますがどうでしたか。

事務局

男性の家事（料理）の参画促進を目的に内閣府が行った「“おとう飯（はん）はじめよう”」キャンペーンに則り、令和4年度に手軽に作れるレシピを募集し、コンテストを行いました。応募者数が少なかったことや、キャンペーン自体の賛否両論もあり、次年度以降の継続はおこなっていません。

会長

町内で営まれている料理教室で、男性向けの料理教室もされていますが、こちらはどのような状況でしょうか。

委員

応募者は女性に比べると圧倒的に少ないですが、年齢は若い方から 80 歳を超える

方まで幅広く参加され、それぞれに楽しんでおられます。

また私の子どもが、コロナ禍に一人暮らしで料理を始めた様子を見ていると、男性か女性など関係なく一人の人間として生きていくために、自分で食べるものを自分で作れる習慣が身に着けられればよいのかなと感じました。

また料理に限らず、男女でこうあるべきということではなくて一人ひとりの人間として生きていく力やお互いを思いやる気持ちなどが確立されていく教育が大切だと感じました。

会長

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

委員

DVの専門相談窓口が大山崎町にないことを問題に感じています。DV被害者が相談に行くのはとても勇気のいることですし、またとてもひっ迫した状況の場合もあります。そういったことに対応できる専門の相談員が必要だと感じます。

事務局

ご意見ありがとうございます。大山崎町のような小規模自治体ですと専門相談員を1人置くということがなかなか難しく、そこはデメリットだと感じています。一方で、小さい町だからこそ住民との距離が近く、相談があった場合に部署間で連携し、場合によっては必要な機関にすみやかにつなぐことができることがメリットだと考えています。引き続き適切に対応してまいりたいと考えています。

委員

京都府の相談窓口など、大山崎町以外に相談窓口があることを知らない人もいると思うので、より周知がされるといいなと思います。

会長

本日は、幼稚園からもご出席していただいていますので、子ども達の様子を教えてくださいいただけますでしょうか。

委員

日々子ども達を見ていると、男の子らしく女の子らしくということではなくて、例えばスポーツもリーダーシップも男女関係ないなという印象を受けます。家庭でもそういう教育を受けていることが影響しているのかなと思っています。この子達が大きくなる頃には、本当に平等な世の中になるのではないかと感じます。

会長

スポーツに関しては町でも活動を推進していますが、どういった状況でしょうか。

委員

月に1度どなたでも参加できるスポーツのイベントを行っており、100名以上参加されることもあります。小さなお子さんから年配の方まで、男女関係なく楽しく運動しています。

会長

小学校の様子についても教えていただけますか。

委員

小学校では、例えばランドセルや絵の具の色を選ぶ場面ひとつとっても選択が多種多様になっています。当然そこに、男の子らしく女の子らしくというものはありません。学校側も男女でわかる必要のないものはわからないようにという視点で進めていて、例えばリーダーの活動や運動会の応援団などは、以前であれば男女別で人数を決めていましたが、今はそれも行っていません。

会長

中学校はどうでしょうか。

委員

中学校でも同様の傾向にあります。制服などをモデルチェンジする場合には、ジェンダーの視点を取り入れ、不要に男女をわけることのないよう行っています。他に、男性の教員が1年間の育児休暇を取得したり、短時間勤務をする教員も出てきていますが、それに対しても生徒達は好意的に受け止めています。

事務局

参考にお聞かせいただきたいのですが、性的マイノリティ（LGBTQ）について皆さんはどのように感じておられますか。それと言いますのも令和5年度に性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会を行ったのですが、関心がない方にどう関心を持ってもらうかということを感じました。

委員

性的マイノリティ（LGBTQ）の友人がいますが、私は特に違和感はありません。一人ひとりがその人らしく生きることは普通のことですし、それを認め合っていきたいと思っています。

委員

よく知らないから何となくネガティブなイメージを持っている人もいるのではな

いかと思います。その場合は、性の尊重に対する単独のイベントを実施するというよりは、例えば料理教室であったり商工会のイベントであったり、何らか他のものとのコラボレーションや他のイベントの一部として実施することで、関心のない人にも参加してもらうことができるのではないかと思います。

委員

性への理解促進という、やはり子どもの頃からの教育が大切だと思います。例えば私の子どもには、「水着で隠す箇所は他人には見せてはいけない」と伝えていました。こういったことを子どもにもわかるように伝えることは、子どもの性被害を防ぐ上でも大切だと考えます。

委員

子ども達は純粋な気持ちを持っていると思うので、その時期から啓発活動を行うことは重要だと感じます。性的マイノリティ (LGBTQ) の方の中には、子どもの頃から違和感を持っていたけれど、抱え込んで苦しみ、人に伝えられなかった人もいないでしょうか。なので、そういった人達が当たり前話せるよう、社会での認知が広がるよう、小さなイベントでもいいですし、発信し続けていくことが大事じゃないかと思います。我々、事業者が企画しているイベントで大山崎町に協力することもできますので、ぜひ声をかけてください。

委員

20年以上前ですが、PTAで小学生対象にたばこの害に関する講演会を企画しました。開催前には、対象年齢が低すぎるという反対もありましたが、いざやってみると反響があり、しばらくたってからもその講演会が記憶に残った方もあったようです。やはり子どもの頃からの教育が大切だと実感した出来事でした。

委員

これまで長い間教員をしてきましたが、昔は「生理が始まったことが受け入れられず悩んでいる」という生徒からの相談が毎年のようにありました。しかし近年はそういった相談がありません。直接的な因果関係はわかりませんが、小さい頃から性にまつわる教育を受けていることや情報を得ていることで、心の準備ができて受け止め方が変わってきているのかなと思います。

委員

ここ数年、テレビでも生理用品のコマーシャルが放映されたり、生理に関するテーマが取り上げられるなど、生理に関してオープンに話せるように環境が少しずつ変わってきているように感じます。

委員

女性の社会進出に関して、個人的な意見ですが思うところがあります。それは、現在の社会の構造が男性中心に作られたものだから、女性が魅力を感じず、社会に出たいと思えないのではないかとということです。

以前、商工会の役員の男女比率で女性が少ないことについて考えたことがありました。そのことについて話すと「女性がやりたがらないから」という話になったのです。じゃあなぜやりたがらないのだろうと考えたときに、役員や会議の体制がいわゆる男性が気持ちよく過ごしやすいものになっているのではないかと感じました。

例えば会長になれば、前に出て皆の注目を浴びながら話をする場面があります。もちろん個人による差はありますが、こういった行為は男性的な自己顕示欲に結びつくものかなと思います。

一方で、本日の会議では、元々座っていた席に会長の札を置いて、前には出ずに進行されました。こういうアイデアはとてもいいなと思います。皆で集まって話をして楽しく、その延長線上に意見が飛び交う会議が生まれる。つまり、女性が男性的に装わなくてもそのままの姿で進出していける社会になればいいなと思いました。簡単に始められることもあると思うので、まずは大山崎町からでもそういうことができれば素敵だなと思います。

会長

今回は、場所が長寿苑というのもよかったですね。男女とも気軽に参加しやすい会議はいいと思います。

夫婦が家庭で過ごす中で、お互いを名前で呼び合っているのに、いざ家庭の外に出ると、夫が妻のことを「お前」と呼ぶと言っている人がいました。男女が対等に暮らしていける社会の形成に向けてまだまだ取り組みが必要だと感じました。

委員

現在、地域の防災会議を女性主体で進めています。すると日曜日の午前中であったり、家事を終えた 20 時であったり、皆が集まりやすい会議の時間の案がいろいろと出てきました。さらに若い世代にも加入してもらえるようにも考えているところです。

※ 以降の進行は事務局が担当

5 閉会

事務局

貴重なご意見をありがとうございました。皆様の意見を聞いて、小さなことからでもできることがいろいろとあるのだなと気がありました。小さい町のよさを活かし、協力しながら皆が住みやすい町になるよう一緒に進めていきたいと思っています。